

平成29年度 学校評価計画

29年度より「A よくあてはまる」をもって判定基準を定めることとした。

白山市立美川中学校

重点目標	評価項目		現状(4月)と方向性	判定基準(Aの割合)	主担当	H29	前期	分析と対策			
①授業力向上 (確かな学力を身につけさせる)	①チャイムスタートができている。	生徒	チャイムスタートの意識が弱く、教員やリーダーの呼びかけが必要。	a	50%以上	生指	生徒	a	年度初めは意識が弱く、教員やリーダーの呼びかけが必要だったが、生徒会や室長会の取組でほとんどの生徒の意識が高くなった。今後も取組を継続して、指導を徹底する。		
				b	40%以上						
				c	30%以上						
				d	30%未満						
	②授業の始めと終わりのあいさつをきちんとしている。	生徒	習慣化されつつあり、質的な向上を指導する。	a	50%以上	学習進路	生徒	a			
		教職員		b	40%以上					教職員	d
				c	30%以上						
				d	30%未満						
	③授業では正しい姿勢を心がけている。	生徒	言葉遣いや授業中の姿勢に課題がある。教師の意識差をなくし、声掛けする必要がある。	a	50%以上	学習進路	生徒	d			
教職員		b		40%以上	教職員				a		
		c		30%以上							
		d		30%未満							
④授業中、友だちや先生の話をよく聴いている。	生徒	落ち着いた空気が出ており、聴く態度を認めながら育ててゆく。	a	50%以上		学習進路	生徒	b			
			b	40%以上							
			c	30%以上							
			d	30%未満							
⑤宿題や提出物は、期限を守ってきちんと提出している。	生徒	家庭学習の充実との関連で、宿題の出し方を含め手法を工夫する。	a	50%以上	学習進路	生徒	a				
			b	40%以上							
			c	30%以上							
			d	30%未満							
⑥今している勉強は将来に役に立つと思う。	生徒	授業での学習は将来役立つと考える生徒は多いが(国数平均A+B=81%)今後Aの数値を注視。	a	50%以上	学習進路	生徒	c				
	教職員		b	40%以上				教職員	c		
			c	30%以上							
			d	30%未満							
⑦授業では、先生から出された課題や、学級やグループの中で自分たちが立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。	生徒	課題に前向きに取り組む姿勢はやや弱い。(22%+54%=76%)今後Aの数値を注視。	a	50%以上	学習進路	生徒	c				
			b	40%以上							
			c	30%以上							
			d	30%未満							
⑧話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。	生徒	深め広げられる生徒14%+57%=71%)の割合については、まだまだ伸びしろがある。	a	50%以上	学習進路	生徒	d				
	教職員		b	40%以上				教職員	c		
			c	30%以上							
			d	30%未満							
⑨子どもは授業がわかりやすいと言っている。	生徒	両者の評価に差があり、学校の落ち着きと保護者の評価の伸びがどうなるかを注視する。	a	50%以上	学習進路	生徒	b				
	保護者		b	40%以上				保護者	d		
			c	30%以上							
			d	30%未満							

重点目標	評価項目		現状	判定基準(Aの割合)	主担当	H29	前期	分析と対策
(1) 授業力向上	⑩大人になったときの夢や仕事について考えることがある。	生徒	「こうなりたい」という、意志力を伸ばす原動力となる数値であり、Aの数値変化を注視する。	a 50%以上	学習進路	生徒	c	職業に対しての基礎的な知識が不足していると考えられるので、職業について調べる、考える時間を設定して知識を増やす。
				b 40%以上				
				c 30%以上				
				d 30%未満				
	⑪中学校卒業後の進路のことについて、家庭で話している。	生徒		a 50%以上	学習進路	生徒	d	進路学習の内容が家庭に伝わっていないと考えられるので、保護者の職業について取材をしたり保護者と相談して解決するような課題を設定したりして保護者と共に学習を進める。
		保護者		b 40%以上		保護者	d	
				c 30%以上				
				d 30%未満				
(2) 生徒指導の充実(生徒指導の三機能を生かし、安心して学べる学校づくり)	①学校へ行くのは楽しい。	生徒	周りとの関係性の中で育まれる自己有用感の指標として注視する。	a 50%以上	生徒指導	生徒	c	学校に対して、楽しくない印象をもつ生徒が見られるため、クラスや学校全体を通して、認める場面を増やすなど、自己肯定感が高められる環境を整えていく。
		保護者		b 40%以上		保護者	b	
				c 30%以上				
				d 30%未満				
	②毎日朝食を食べて登校している。	生徒	現状として良好である。一層、質的な変化を求め、取組を精選する。	a 50%以上	生徒指導	生徒	a	ほとんどの生徒が朝食を食べる習慣がある。しかし、少数ではあるが食べない生徒がいるので、今後も継続して声掛けをしていく。
				b 40%以上				
				c 30%以上				
				d 30%未満				
	③朝読書の時間は静かに本を読んでいる。	生徒		a 50%以上	生徒指導	生徒	a	ほとんどの生徒が朝読書に取り組む習慣ができていと考えられる。しかし、一部の生徒で本の準備ができていない状況などもみられるので、学期始めの声掛けを大事にする。
		教職員		b 40%以上		教職員	a	
				c 30%以上				
				d 30%未満				
	④部活動や地域スポーツクラブの活動に積極的に参加している。	生徒		a 50%以上	生徒指導	生徒	a	多くの生徒が部活動に積極的に取り組んでいるが、中には、意欲的ではない生徒もみられるため、部活動顧問、学年会、保護者と連携して部活動への参加を促していく。
		保護者		b 40%以上		保護者	a	
		教職員		c 30%以上		教職員	d	
				d 30%未満				
	⑤掃除はまじめに行っている。	生徒	概ね良い。一層の良い空気づくりを図り、生徒の主体性の指標として注視。	a 50%以上	生徒指導	生徒	b	掃除を丁寧に行っている生徒がいる一方、少数ではあるが、積極性を欠く生徒もいるため、声かけ指導を粘り強く継続していく。
		教職員		b 40%以上		教職員	d	
				c 30%以上				
				d 30%未満				
	⑥社会のルール(自転車マナーや交通ルール)や学校の規則を守っている。	生徒	概ね良いが、定着と質的な向上を図る。	a 50%以上	生徒指導	生徒	a	生徒は規範意識が高いと思っているが、教職員と保護者の意識とは、異なっている。よって、社会のルールを守ることの意義を今後より一層指導していくことに努める。
		保護者		b 40%以上		保護者	c	
		教職員		c 30%以上		教職員	d	
				d 30%未満				
	⑦自分の健康に関心をもち、規則正しい生活を身につけている。	生徒	全体指導に加え、CD評価と思われる生徒への指導を重点とする。	a 50%以上	生徒指導	生徒	c	規則正しい生活が身に付いていない生徒がいるため、保健体育の授業や、養護教諭、委員会活動との連携を通して、生活習慣の改善を呼びかけていく。
		保護者		b 40%以上		保護者	d	
		教職員		c 30%以上		教職員	d	
				d 30%未満				
⑧自分のよいところを知っている。	生徒	弱い。周りとの関係性の中で育まれる自己有用感の指標として注視する。	a 50%以上	生徒指導	生徒	d	自分のよいところを知っている生徒がいる一方で、自己肯定感が低い生徒もみられる。今後学校生活の中で、目標を決め、振り返る場を設定することで、自己肯定感を高めるよう工夫していく。	
			b 40%以上					
			c 30%以上					
			d 30%未満					

重点目標	評価項目		現状	判定基準(Aの割合)	主担当	H29	前期	分析と対策		
(2) 生徒指導の充実	⑨場に応じた言葉遣いをしている。	生徒	生徒の言葉遣いは公的場面、私的会話共にやや荒さが見られる。	a	50%以上	生徒指導	生徒	b	公的場面での言葉遣いを意識している様子が見られるようになってきている。一方で、私的な交流等で乱暴な言葉遣いも見られるため、公的な言葉遣いや、相手に対して思いやりの心をもって話すことの大切さを継続して指導していく。	
		教職員		b	40%以上		教職員	b		
		c		30%以上						
		d		30%未満						
	⑩授業と休み時間の切り替えを大切に、時計をみて、時間を意識して行動している。	生徒	生徒には、捉えがやや甘いところが見られる。	a	50%以上	生徒指導	生徒	b	生徒は時間を守れていると考えているが、教師は声掛けをしないと時間を守れないという意識を持っている。今後時間を守ることの重要性を継続して指導し、生徒が主体的に時計を意識して行動できるような取組を工夫する。	
		教職員		b	40%以上		教職員	d		
				c	30%以上					
				d	30%未満					
(3) 心の教育の推進(いじめや不登校の未然防止)	①心があたたまる言葉を使い、周りに困っている人がいたら助ける。	生徒	全教育活動を通じた取組の指標として、Aの推移を見守る。	a	50%以上	生徒指導	生徒	c	あたたかい言葉を使おうとする意識が低い生徒が見られる。今後、道徳の時間などを中心に、思いやりの心をもって人と接することの大切さを指導していく。また、教師があたたかい言葉を使い、浸透させる。	
		保護者		b	40%以上		保護者	d		
				c	30%以上					
				d	30%未満					
	②誰かがいじめや迷惑行為を受けている時、それを止めようとしている。	生徒		a	50%以上	生徒指導	生徒	d	迷惑行為を止めようとする意識が低い傾向が見られる。いじめや迷惑行為があった際は、教員に相談するなど、生徒が報・連・相を行いやすい環境をつくっていく。	
				b	40%以上					
				c	30%以上					
				d	30%未満					
	③先生や友達、生徒の良いところや努力しているところを認めてくれると思う。	生徒	三者の数値の乖離を分析して対策を取っていく。	a	50%以上	生徒指導	生徒	c	教師は生徒の良いところを認めている意識があるが、生徒は認められていると思っていないという点において意識の差が見られる。今後、学校活動全般を通じて、生徒の様子をより一層把握し、認める場面を増やすことで自己肯定感を高めていく。	
		保護者		b	40%以上		保護者	d		
		教職員		c	30%以上		教職員	a		
				d	30%未満					
④自分には悩みや心配事があるとき相談できる人がいる。	生徒	教育相談の生徒の指標として数値変化を見守る。	a	50%以上	生徒指導	生徒	a	悩みごとを打ち明けられる人がいることがわかる。今後もダイアリーや懇談等を通して、悩みごとがある際に、生徒が相談しやすい環境を整えていく。		
			b	40%以上						
			c	30%以上						
			d	30%未満						
(4) 生徒会活動の活性化	①学級における決められた係の仕事や委員会活動などにきちんと取り組んでいる。	生徒	良さを認め、質的な向上を図る。	a	50%以上	特別活動	生徒	a	生徒と教職員の意識に差があるので、生徒を認めつつも、より高い質を教師が求めて指導する必要がある。行事を利用して委員会の活動を増やすことで、自己存在感を持たせる。	
		教職員		b	40%以上		教職員	d		
				c	30%以上					
				d	30%未満					
	②行事に積極的に参加し、学級のみんなや部活動のメンバーと協力し合っている。	生徒	良好である。振り返りの場の設定により、取組の成果を実感させる。	a	50%以上	特別活動	生徒	a	行事への意欲はととても高いことが分かる。こなし行事とせず、体育祭や文化祭を成長の機会とし、目標を決め、取組を振り返って、他者の成果に学ぶとともに、学級・学年でのつながりを深めていく。	
		教職員		b	40%以上		教職員	c		
				c	30%以上					
				d	30%未満					
	③学校や地域・家庭で相手も自分も笑顔になるあいさつをしている。	生徒	人懐っこい挨拶が特徴である。良さを認め、自治活動として高めて行く。	a	50%以上	特別活動	生徒	c	毎朝の玄関指導から、あいさつはするが、声が小さく、自分から進んであいさつできない生徒が多い。部活動ごとのあいさつ運動から質を高めていく。	
		保護者		b	40%以上		保護者	d		
				c	30%以上					
				d	30%未満					

(5)家庭・地域との連携に関しては、肯定的回答(A+B)を重視し、判定基準を変えています。

重点目標	評価項目		現状	判定基準 (A+Bの割合)	主担当	H29	前期	分析と対策			
(5)家庭・地域との連携	①学校の教育方針や教育内容について理解している。	保護者	地域は学校が求め、向き合えば協力的である。	a	80%以上	教務	保護者	a	儀式や行事、育友会の集まりなどを通して、訴えている結果である。今後も授業参観、行事、部活動の場面などを通して、継続して伝えていく。		
				b	70%以上						
				c	60%以上						
				d	60%未満						
	②学校は子どもや保護者の相談事によく対応している。	保護者	学校に対する相談、苦情を率直に伝える電話が多い。「学校は相談に適切に応える」の数値変化を注視。(肯定的76%)	a	80%以上	教務	保護者	a	学校に対する相談事は多いが、その都度丁寧に対応していることが多い。今後も相談をチャンスと捉え、情報の迅速な共有、対応を続ける必要がある。		
		教職員		b	70%以上					教職員	a
				c	60%以上						
				d	60%未満						
	③学校だより、学年だより等の配布物やホームページには、よく目を通して	保護者	具体的手立てをとり、肯定的な数値の推移を捉えて有効性を検証する。	a	80%以上	教務	保護者	c	配布物等を見せていない生徒がいることが考えられる。学級での呼びかけを徹底するとともに、保護者向けの様々な会で保護者にも呼びかける。		
				b	70%以上						
				c	60%以上						
				d	60%未満						